資料２

第２回高松市創造都市推進審議会　摘録

日時　平成２４年月１１月１７日（土）午後１時３０分～３時３０分
場所　Café Style Hazuki 2F
出席　委　員：植松、佐々木（会長）、佃、西成、荒木、木村、中西、原田、
三井、小西、橋本、瀧澤、徳増、広野、松山
高松市：宮武、松本、上枝、米山、永正、次田、一原、佐野、溝渕、高田、
八杉
アルパック：森岡、江藤

資料　　次第
１　高松市創造都市推進ビジョン策定スケジュール
２　第１回審議会議事録
３　統計データの整理
４　分野別計画の整理
５　関係者ヒアリング中間報告
６　高松らしい創造都市像について
７　高松市創造都市推進懇談会(通称 U-40)委員名簿
参考資料　ワールドカフェの進め方
第２回創造都市推進審議会　グループ分け

１．開会

（事務局より開会の挨拶を行った）

２．第１回審議会の振り返り

（事務局より資料２　第１回審議会議事録を説明した）

３．本市の創造都市に係る現状整理

（事務局より資料３～５を説明した）

４．議題

（１）高松らしい創造都市像について

（事務局より資料６及び参考資料を説明した）

①ワールドカフェ

【Ａグループ】

１回目「高松らしい創造都市とはなにか」（西成、荒木、原田、橋本、滝澤）

≪伝統工芸を残す≫

●2 つの伝え方

●技術として

●カルチャーとして

●収入=社会参加

●職人

●完成度の高い作品

●技術伝承

●養成講座=人材育成

≪創造性≫

●活かしあってまちづくり

●高松らしさを発揮する

≪小さいまち≫

●いろんなひとたちでにぎわっている

●人が接するにぎわい

●高松としてにぎわう

●国内事例　OK

●金沢

●山も　海も　まちも

●小さいところに固まっている

●どうして発見していくのか?

●作り出す

●小ささ

●全てのセットがある

●小さい中に全てある

●小さい中にコンパクトにある

●地域劇場

●中で暮らすと見えにくい

≪城下町を残す≫

●日本で一番小さい

●美しい景観
●海に面した城下町は高松だけ
●江戸時代のまちづくり　城下町

≪農業を残す≫
●農地維持
●新しい担い手育成
●農家の課題　担い手不足
●農業法人
●生産者が価格をつけられる農業
●道の駅=地域拠点

≪高松に根付く人≫
●見せる
●作り手が増えていく
●発見する　課題を共有する
●文化は鑑賞
●鑑賞していく
●創造都市

２回目「クリエイティブな場づくり」（西成、荒木、木村、三井、瀧澤）
≪工芸≫
●情報が得られる場
●コーディネートするのも場
●どこに聞いたら良い?

≪生活≫
●暮らしに根差した文化
●今の時代にあった文化にしないと
●鑑賞者できない
●文化財残らない

≪場≫
●利用料
●暮らしの場

●安い
●家賃
●生活の場
●社会的役割
●お金がない若い人を集める
●実現欲求がかなえやすい

≪自分の思考に共感する人がつながり≫
●ゆるい
●小さい
●居心地が良い

≪工芸≫
●どんな工芸を作ってきたのか
●流動しているにぎわい感
●動きがある

≪新しい者を育てる高松・担い手を育てる高松≫
●専業で
●兼業で
●高松を残

【Ｂグループ】
１回目「高松らしい創造都市とはなにか」（佃、木村、三井、小西、松山）
●芸術土って高松だけ
●まちは(商店街)文化のフカ(孵化)装置
●目利き力がある
●小粒がネットワーク化
●ネットワークの心地よさ
●多様性とゆるさ
●豊かさ=ゆるい→ゆっくりとものごとが考えられる
●自負　誇り
●数字ではない魅力、良さがあるがある　求めている LifeStyle ができそう
●好きなものに出会えるまち
●メインストリートとサブストリートのコントラスト

●エリアごとに特徴づけを
●讃岐・高松芸どころ
●Creative を育てるには何が必要?
●芸術活動を応援する高松
●not 組織 but 個(まちの単位が)
●地域に特色をつくる
●存郷→どういう関係つくる
●ゆるい(危機感がない)←ゆっくりと物事を考えられる
●ゆるさは魅力か?
●↑そういう層(ゆるい)があつまってくる
●高松を好きになる施設　例）アミューズメント施設
●まちづくりの中で消えたものがある
●遊園地や動物園←昔は栗林公園
●自分の好きなものに出会える
●自己実現　すてきな仲間　ネットワークの魅力
●都市計画
●子供
●文化・芸術を応援できる街
●ししまい　香川県に 1000 ある商店街でしたらどうか?
●小さい店が集まる 8 町会議連携
●地域に特色
●都市部に近い地方都市　移住者
●ゆるい時間　ここ町屋　在郷
●めききき力　100 年先　商店街　文化発進　自負　ほこり　情報発進

≪商店街≫
●目利き力
●丸亀町→100 年先を見据えて　自分の利害だけではない!
●商店街　500 店舗(せらいながらも)連携している
●丸亀町は地形も高い→水道の中心
●月に 1 回ある 8 町商店街の理事会
●百貨店のひとり勝ちではなく商店街がしっかりある
●たくさん勉強をしている
●まちなかは魅力的(ただ家賃は高い)
●これだけ多くの視察がくる商店街はない

●全国から若い人があつまってくる
●数字ではないものを求めてきている

２回目「クリエイティブな人材の確保」（佃、小西、松山、原田、橋本）
●有休地をどうするか
●多様人材が集まる実験室
●マルシェのネットワーク化
●まちのマルシェに出向く
●新しい農家の売り方
●小量多品種
●つながれば、できる(個ではできなくても)
●いろんなものがある=香川の豊かさ
●包括的に出会える場づくり
●そこの人材
●実践者が集まって研究する
●若い人材産業
●道の駅で売る

【Ｃグループ】
１回目「高松らしい創造都市とはなにか」（植松、中西、徳増、広野）
●安全・安心について
●交通機関の整備は?
●少子高齢化対策は?
●防災についての整備は?
●何を目指す?←最終目的??
●高松らしさとは?
●市民のメッセージを具体的に!
●美術館と町をつなぐイベント
●農業を取り入れたクリエイティブなアートを
●例)ぼんさい美術館
●例)かかしアート
●まずは…。高松らしさを見出す!!

２回目「国内・海外に向けた情報発信」（植松、中西、徳増、広野）
（付箋紙なし）

②発表

【Ａグループ】

西　成ｏラウンド１では、農業や伝統工芸の担い手をどのように育てるかが話題になった。

ｏ高松の特徴は「非常に小さい」こと。その「小ささ」が重要なキーワードとなる。そのためには、見えない物も含めて、どう引き出すかが重要。

ｏ高松は日本で唯一無二の城下町の形式を持っている。それを活かしたまちづくりを進めていけば良い。

ｏラウンド２では、どのように創造都市をコーディネートしていくか、そのための場をどう作っていくかが話題になった。具体的には、例えば工芸に携わる職人について、どのようなネットワークを作って、呼んでくるかということがポイントになる。

【Ｂグループ】

小　西ｏラウンド１では、高松市の特徴として、日本一長い商店街が存在していることが私たちの自負である誇りであることが話題になった。どこかの商店や商店街が一人勝ちをするのではなく、小さな店がたくさん集まることで付加価値を生み出しており、個性につながっている。

ｏ外から高松にやって来る移住者が増えている。他都市と比べて給料は高くないが、あえて高松を選んでいるということは、高松には今の時代の人たちが望んでいる生活スタイルを実現できる土壌があるのではないか。それはある種の緩さ、ネットワークの心地良さである。災害も少なく、経済が低調でも生活には困らないため、ある種のゆとりがある。そのため、じっくり物事を考えられる土壌がある。そのため、新しいものが生まれ、それを様々な人がネットワークを通じて育てていく。これが高松の魅力である。

ｏラウンド２では、中心部と郊外部の連携が１つのテーマであることを確認した。例えば農業の担い手が減っている中、その地域に道の駅を作ることはもちろんだが、地域内部で完結するのではなく、農産物をまちなかに多くあるマルシェに持っていくこともできる。また、マルシェ間のネットワークを作り、その循環を推進することもできる。

ｏ例えば農業をやりたいが販売に興味がない人、販売に興味はあるが農業はやりたくない人を繋げる包括的な場づくりをどうしていくかがポイント。その場を繋げていく人材をどう確保・育成していけば良いか。その研究を進める必要があるのではないか。

【Ｃグループ】

中　西ｏラウンド１では、我々だけでも「高松らしさ」を追求することが大事であると確認した。議論の大半がお互いの仕事や取組の話になったが、様々な分野の話題を通じて、高松らしい創造都市を目指せば良い。話の大筋としては、事業主の協働を踏まえながら、様々なイベントを開催していけば良いという結論になった。

ｏラウンド２では、様々な情報ツールがある中、情報の質・目的・ターゲット等で情報ツールの使い方が変わってくる。今は Facebook が流行っているが、目的に応じた情報の流し方を考えなければならない。情報発信についても目的をしっかり持つべきである。

③委員長コメント

佐々木ｏ各グループの発表を聞いていて、高松というのは適度な小ささ、程よい大きさを持っている。それが創造都市の可能性に近いと改めて思った。

ｏ人材をどう育てていくか。日本は幼稚園の段階から感性教育を行っているが、小学校、中学校、高校、大学と進学するにつれて、専門性が高くなり過ぎている。それもあって、感性が十分に育たないという側面がある。高松モデルとして、創造的人材を育てるコースを提案していくのも面白い。

ｏ２週間ほど前、創造都市推進局の Facebook ページが立ち上がっていることを知った。それならば、審議会メンバーの中でも Facebook でページを立ち上げて、情報交換してはどうか。会議は１～２か月に１回となるので、その間に情報交換や経験共有をすれば、次の会議までの積み上げができる。工夫をしてほしい。

ｏ次の会議は長めの時間で開催できると良い。進め方や場所について、みなさんの提案を頂いて改善していきたい。

５．閉会

事務局ｏ第３回審議会は平成２５年１月２７日に開催する。場所等については、決まり次第連絡する。

（以上）